

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】リハビリテーション医学総論Ⅰ（内科・神経内科）	【担当教員】 氏名 大澤源吾 [研究室] E棟2階
【授業区分】 共通科目	[内線番号] 302
【授業コード】 A 101	[メールアドレス] osawa@nur.ac.jp [オフィスアワー] 月～水の在室時（事前連絡が必要）
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科での履修は、リハビリテーション医療方法を発展させ、さらに新しい方法開拓につながるものでなければならない。 ・対象とするヒトの病態の特徴を把握し、リハビリテーション医療における問題点を併せて明らかにすることができれば幸いである。 <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療は患者を中心とするものである。患者がもつ問題点を解決すべく履修してほしい。過大な情報からの継ぎ接ぎのような論文を作ってはならない。 	
<p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般医学の中でもとくに摂食嚥下障害、高次脳機能障害、運動科学のそれぞれのコースにかかわりの深い医学について学ぶ。 ・摂食嚥下障害関係では、摂食嚥下関連器官の機能と病態について、高次脳機能障害関係では認知症による精神機能低下や失語・失行・失認等の巣症状とその背景について、運動機能科学関係では、骨・筋組織変化とその対応を中心に、広範な医学の中でも比較的限られた分野を選択的に履修する。 <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下障害、高次脳機能障害、運動機能科学のそれぞれのコースにかかわりの深い疾患病態とその対応について学ぶ。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う変化について説明できる。 ・脳血管障害に関わる病態について説明できる。 ・嚥下障害に関わる要因について説明できる。 ・骨・筋組織障害について説明できる。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>試験 60%、授業・課題への取り組み 40%の割合で総合的に評価を行う。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>学生時代に使った内科書など。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂原茂一：リハビリテーション（岩波新書） ・安藤徳彦：リハビリテーション序説（医学書院） 	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	人の老化と臓器機能低下	高齢者総合的機能評価の重要性	ヒトの諸臓器の機能等を復習しておく.	60分
2	生活習慣と血管障害	運動療法と予防的リハビリテーション	ホルモン分泌から効果発現までの過程.	10分
3	脳血管障害後の身体及び運動機能	うつ病態と対処方法について	高次脳機能について学習しておく.	60分
4	廃用症候群と低栄養	サルコペニア, 骨粗しょう症	栄養学の初歩的学習をしておく.	60分
5	アルツハイマー病	リハビリはできるのか, 予防はできるのか	細胞の蛋白質生成機序を整理しておく.	60分
6	パーキンソン病の病態と対応	講義	運動と調整機能を復習しておく.	60分
7	嚥下障害と誤嚥性肺炎	ALS, Wallenberg 症候群など	肺炎を復習しておく.	30分
8	終末期リハビリテーション	高齢者リハビリにおけるその他の問題点	どんな問題があるかを確認しておく.	10分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
特になし

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】リハビリテーション医学総論Ⅱ（外科・整形外科）	【担当教員】 氏名 高橋明美 [研究室] A棟1階
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] akemi.t@nur.ac.jp
【授業コード】 A 102	[オフィスアワー] 月～木：9：00～18：00 金：13：00～18：00
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 特記なし 《受講者に関わる情報》 講義は、予め学生にテーマを出し、そのテーマについてまとめた内容を発表する形式で行う。また、発表した内容と講義で教授した内容についてはレポートにまとめ提出する。 《受講のルールに関わる情報》 特記なし	
【講義概要】 近年のリハビリテーションの重要な役割は、「障害の予防」である。外科・整形外科分野においては「骨・関節・脊髄の痛みによる活動性の低下の予防」「運動器疾患対策の推進」が課題となっている。また、外科分野においては、がん医療推進に伴うがん患者のリハビリテーションが重要課題となっている。こうしたトピックス的な内容も含めて教授し、医療や介護分野における運動器リハビリテーションについての理解を深める。	
【一般教育目標(GIO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション医療の中で、運動器リハビリテーションの対象となる疾患や症状、リハビリテーションの方法を理解する ・医療や介護分野における運動器リハビリテーションの役割について学ぶ 	
【行動目標(SBO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・近年のリハビリテーションの役割について説明できる ・運動器リハビリテーションの意義について説明できる ・各種運動器疾患のリハビリテーションについて説明できる 	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 課題に対する発表 50%、レポート 50%で総合的に評価する。	
【テキスト・教科書】 プリントを配布する	
【指定図書・参考書】 その都度紹介する	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	リハビリテーションの変遷 —近年のリハビリテーションの課題と 方向性	障害の発生予防に視点を置いたリハビリ テーションをどのように展開していくか	予め資料配布 講義時 10 分発表 講義内容と合わせレポート	60分
2	運動器リハビリテーション①	ロコモティブシンドロームに視点をおい たリハビリテーションの展開	予め資料配布 講義時 10 分発表 講義内容と合わせレポート	60分
3	運動器リハビリテーション②	「ロコモ」「サルコペニア」「虚弱」との 関係について	予め資料配布 講義時 10 分発表 講義内容と合わせレポート	60分
4	運動器リハビリテーション分野におけ る臨床リハビリテーション	臨床リハビリテーションに基づく、評価 から治療	予め資料配布 講義時 10 分発表 講義内容と合わせレポート	60分
5	骨・関節疾患のリハビリテーション	関節リウマチや変形性関節症に代表され る骨関節疾患の病態からリハビリテーシ ョン	予め資料配布 講義時 10 分発表 講義内容と合わせレポート	60分
6	疼痛のリハビリテーション	種々の運動器疾患に伴う疼痛に対する評 価から治療—CRPS との関連	予め資料配布 講義時 10 分発表 講義内容と合わせレポート	60分
7	脊椎疾患のリハビリテーション	腰椎椎間板ヘルニアや頸椎症に代表され る脊椎疾患の病態からリハビリテーショ ン	予め資料配布 講義時 10 分発表 講義内容と合わせレポート	60分
8	がん患者のリハビリテーション	がん患者の問題となる廃用症候群の予防 から QOL 向上まで	予め資料配布 講義時 10 分発表 講義内容と合わせレポート	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【教員からの一言】</p> <p>講義テーマや内容は前後する可能性があります</p>

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 研究方法論	【担当教員】 氏名 八木稔（非）、山村健介（非） [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 基礎科目	[メールアドレス] 八木：yagiprev@dent.niigata-u.ac.jp 山村：yamamura@dent.niigata-u.ac.jp
【授業コード】 A 104	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 八木：疫学および統計学に関する基本的な知識があることが望ましい。 《受講のルールに関わる情報》 八木：授業に基づいたレポートの提出を求める場合がある。	
【講義概要】 （オムニバス方式） 八木：まず、疫学的な観点から観察研究と介入研究について学ぶ。つぎに、医学統計学の基礎的な考え方、統計学的な分析方法の意味、および統計的な検定方法を学習する。さらに、その実際的な適用の仕方について実用に即したデータ処理について理解することになる。 山村：これから学位研究のプロジェクトを立ち上げるにあたり、無理のない実験計画を立てるために必要な知識をディスカッションを交えながら解説します。	
【一般教育目標(GIO)】 八木：医療統計学を具体的に理解する能力を養う。 山村：研究の基本的な進め方を身につけるため、研究に必要な基礎知識を理解する。	
【行動目標(SBO)】 1) 観察研究と介入研究について説明できる。 2) 質的なデータに関する検定、およびオッズ比、相対危険度について説明できる。 3) 数量的なデータに関する検定、および統計的推測について説明できる。 4) 相関と回帰について説明できる。 5) 研究とは何かを理解する。 6) 研究の方法には種々のものがあるので、それぞれについての特徴を知る。 7) 学術論文の構成を理解する。 8) アイデアと仮説の違いを説明できる。 9) 仮説に基づいて実験計画をたてることができる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 試験50%、レポート50%の割合で評価する。	
【テキスト・教科書】 プリントを配布する。	
【指定図書・参考書】 八木；中村 好一：基礎から学ぶ楽しい疫学（第3版），医学書院，2012. ISBN-10: 4260016695（疫学はもとより，それに関する統計学についてのエッセンスが記してある） 山村；随時説明する。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後の展開等）	授業外標準学修時間(分)
1	観察研究，分析研究，および介入研究 (八木)	観察研究，分析研究（コホート研究，症例対照研究）および介入研究，それぞれの特徴と考え方について講義する。	準備学修：左記3つの研究様式について調べておくこと。 事後の展開：レポートを提出すること。	90分
2	統計的検定（I） オッズ比，および相対危険度（八木）	カイ二乗検定およびフィッシャーの確率検定について講義と演習を行う。	準備学修：カイ二乗検定について調べておくこと。 事後の展開：課題を解きレポートとして提出すること。	90分
3	統計的検定（II） 統計的推測（八木）	t検定および分散分析について講義と演習を行う。	準備学修：t検定と分散分析との異同について調べておくこと。 事後の展開：課題を解きレポートとして提出すること。	90分

4	相関と回帰 (八木)	相関係数, 相関と因果, 単回帰分析, 重回帰分析, およびロジスティック回帰分析について講義と演習を行う。	準備学修: 相関と回帰の基本的知識について調べておくこと。 事後の展開: 課題を解きレポートとして提出すること。	90分
5	科学的な研究方法とは—研究の種類 学術論文の構成 (山村)	科学的な研究方法とは—研究の種類 学術論文の構成	準備学修: 各自の研究テーマを考えておくこと。 事後の展開: 各自の研究テーマにあった総説論文、原著論文を1編ずつ探すこと。	90分
6	アイディアと研究仮説の違い 仮説の立て方 (山村)	アイディアと研究仮説の違い 仮説の立て方	準備学修: 上記の原著論文を一読しておくこと。 事後の展開: 各自の研究テーマについて総説論文の情報を活用しながら仮説を複数立てること。	90分
7	仮説に基づいた実験計画プランニング 文献の検索方法 (山村)	仮説に基づいた実験計画プランニング 文献の検索方法	準備学修: 上記仮説の実現性を検討しておくこと。 事後の展開: 立てた仮説の妥当性を裏付ける文献を検索すること。	90分
8	文献の読み方 軌道修正の必要性—研究例紹介 (山村)	口頭試問	準備学修: 新たに集めた文献を一読しておくこと。 事後の展開: 研究計画についてのレポートを提出すること。	90分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

八木: 統計学は, 数学とは異なります。統計学を理解するために, 統計学と疫学に独自の用語および考え方に興味をもつようにしてください。
山村: まだ具体的な研究プロジェクトは決まっていない時期の開講で, 自分なりに考えた研究テーマをもって一回目の講義に望んでください。

【科目名】 精神医学	【担当教員】 的場已知子 式場隆史（非）
【授業区分】 共通科目	[研究室]非常勤講師室（式場）
【授業コード】 a 101	[オフィスアワー]来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>精神医学についての一般的な基本知識を得ている（国試レベル）ものとして講義を行います。</p> <p>精神医学に関する基本的な講義を受講したことのあるレベルを対象に行います。</p> <p>実際の診察や面接の場面をわかりやすくするためビデオ等の教材を使いたいと思います。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>資料配布は当日に行います。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>（オムニバス形式）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神医学についての一般的な知識と治療技法について学ぶ。統合失調症や気分障害などの疾患ごとの講義のほか、精神科医療と社会、リエゾンに関しても説明する。そして、これらの中からリハビリテーションに関連することも説明する。 <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神医学をチーム医療の観点から視点を変えて理解できるようになること。 ・身近にあるメンタルヘルス上の問題に気づけるようになること。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、問題を見つけ、解決するための思考と行動を討論形式で実践する。 ・臨床の場面でメンタルヘルスに関する問題点を考えたり、専門医につなげたりする。 ・問題提議ができること。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>レポート提出100%で評価を行う。</p> <p>1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は、他に課題を課す。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>その都度紹介する。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>その都度紹介する。</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	精神医学総論 (式場)	精神医学総論について講義する.	特になし	0分
2	精神科疾患学各論 (式場)	精神科の疾患について講義する.	特になし	0分
3	精神科治療学 (式場)	精神科の治療について講義する.	特になし	0分
4	精神科リハビリテーション (式場)	精神科のリハビリテーションについて講 義する.	特になし	0分
5	精神医療現場の現状 (的場)	患者から見た精神医学	事前学習：精神科の知識の振 り返り. 事後：その日のまとめとチー ム医療において自らの職種を 振り返り、何か重要かを認知 すること.	30分
6	看護から見た精神医学 (的場)	講義		30分
7	コメディカルから見た精神医学 (的場)	講義		30分
8	医師から見た精神医学 (的場)	講義		30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
精神障害者のリハビリテーションは身体疾患のリハビリテーション以上に重要な場合が多いと思います。基本的な理論と考え方を身につけてください。

【科目名】 公衆衛生学総論	【担当教員】 氏名 加藤豊広（客） [研究室]客員教員室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] kato0008@yahoo.co.jp
【授業コード】 a 102	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特記なし 《受講のルールに関わる情報》 特記なし	
【講義概要】 公衆衛生学とは、人の集団を対象として、疾病を予防し、生命を延長し、身体的精神的能率を増進させる技術及び科学である。本講義では公衆衛生学の理論とその研究方法である疫学を学習する。 【一般教育目標(GIO)】 公衆衛生学の知識を身につける。 統合医療の知識を身につける 【行動目標(SBO)】 疫学研究をデザインできる。 統合医療を説明できる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 記述式試験を実施する。試験 60%、授業・課題への取り組み 40%の割合で総合的に評価を行う。	
【テキスト・教科書】 プリントを配布する。	
【指定図書・参考書】 その都度紹介していく。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	イントロダクション	衛生学・公衆衛生学と統合医療	配布資料やノートを読んでおくこと	15分
2	健康問題の変遷 医療の歴史Ⅰ	狩猟採集漁労・農耕牧畜社会と伝統医療	配布資料やノートを読んでおくこと	15分
3	健康問題の変遷 医療の歴史Ⅱ	工業社会と伝統医療	配布資料やノートを読んでおくこと	15分
4	法律と医療	憲法・民法・刑法と医療	配布資料やノートを読んでおくこと	15分
5	疫学 因果関係	ロスマンのパイモデルと偶然・系統的誤差	配布資料やノートを読んでおくこと	15分
6	疫学 健康指標	比率（罹患率や有病率等）や人年法	配布資料やノートを読んでおくこと	15分
7	疫学 観察研究	記述的な研究とコホート研究・症例対照研究	配布資料やノートを読んでおくこと	15分
8	疫学 介入研究	ランダム化比較試験・非ランダム化比較試験・自己コントロール研究とエビデンス	配布資料やノートを読んでおくこと	15分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

実験のデザインをする場合に疫学の知識は大変役立ちます。

【科目名】 神経解剖学	【担当教員】 氏名 熊木克治（非） [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] kumaki@kce.biglobe.ne.jp
【授業コード】 a 103	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特記なし 《受講のルールに関わる情報》 黒板を使用する。	
【講義概要】 ヒトの体は骨、筋肉、神経など頸、胸、腹、尾部と規則正しい分節構造を呈し、体の周囲を取り囲む体幹（胴体）を構成している。頸部と胸部の間に上肢、腹部と腰部の間に下肢が発達する。一方、体の内部には口から肛門に至る内臓が存在し、この両者で二重の筒を構成している。頭頸部における内臓に当たる鰓弓性器官と感覚器の特殊化も理解する。中枢神経系と末梢神経系の構造と機能を一連にして理解することも重要である。	
【一般教育目標(GIO)】 脊髄神経に関連する分節構造の胴体と四肢、脳神経に関連する鰓弓性器官と感覚器と眼筋・舌筋（体節性）という二つの原則に基づく人体の構造と機能を発生学的、比較解剖学的な解析と説明ができる。	
【行動目標(SB0)】 学生個人の研究テーマにかかわる問題について神経解剖学的に研究し、臨床的側面からの考察も行なう。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 試験80%、レポート20%の割合で評価する。	
【テキスト・教科書】 分担解剖学 1巻、2巻、3巻：金原出版	
【指定図書・参考書】 末梢神経解剖学 基礎と発展：サイエンス・コミュニケーション・インターナショナル 1995 神経局在診断 その解剖、生理、臨床： Peter Duus 花北順哉訳 文光堂 2010 日本人のからだ 解剖学的変異の考察：東京大学出版会 2000 解剖学者が語る人体の世界：風人社 1996	

【授業テーマ・内容】 神経解剖学				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	科学とは 古き革袋に新しい酒	ダーウインの精神 肋間神経の特徴	考える解剖学 分節のズレ、胴長胴短について	60分
2	頸は隠れた主役	横隔神経群と鎖骨下静脈の局所解剖学	頸も胴体である	60分
3	神様の設計図	腕神経叢と腋窩動脈の局所解剖学	Seddon の手術	60分
4	変異から教えられること	坐骨神経の筋枝から下肢のねじれを説明	上肢と下肢の比較解剖学	60分
5	中枢神経は肉厚のゴム風船	発生と機能区分から分析する構造と機能	脊髄、脳幹、間脳、大脳皮質	60分
6	神経伝導路	大脳半球の構造と機能	連合野	60分
7	ヒトは水の中からやってきた	鰓弓性器官の発達、遺残、転用	咀嚼、哺乳表情、嚥下、発声	60分
8	鰓孔の残りを実感する時、 内臓の神経	ヒトの耳は第1鰓孔の残り 自律神経	鼓室一耳管一耳管咽頭口 交感、副交感神経	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【教員からの一言】</p> <p>特になし</p>

【科目名】 臨床解剖学	【担当教員】 氏名 熊木克治（非） [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] kumaki@kce.biglobe.ne.jp
【授業コード】 a 104	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特になし 《受講のルールに関わる情報》 特になし	
【講義概要】 通常の解剖学実習ではいわゆる固定した遺体で、硬くなっており可動性も少ない。そのため、骨の突起、孔、凹みなどを正確に観察し、筋肉の収縮や関節の運動野観察は不可能に近い。「生きているヒトの体の解剖学的観察」を行ない、臨床で取り扱う生きた人間の体表からの特徴を研究し明らかにする。 【一般教育目標(GIO)】 体表からの生体観察に基づく所見を理解し、臨床での評価、リハビリの際に応用して役立てる。 【行動目標(SBO)】 生体観察の特徴を皮膚、骨格、筋肉、神経、血管、内臓、感覚器などの観点から説明し応用する。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 試験80%、レポート20%の割合で評価する。	
【テキスト・教科書】 特になし	
【指定図書・参考書】 特になし	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	生体観察による体表の区分	頭、頸、胸、腹、体肢	債弓由来と体節由来の境界	60分
2	骨格系の生体観察	分節構造、骨(軟骨)化骨の種類	変異と臨床	60分
3	筋肉系の生体観察(胴体)	3層構造と神経の特徴	触察法	60分
4	筋肉系の生体観察(上・下肢)	Locomotion 関節、屈筋・伸筋	局所解剖と触察法	60分
5	筋肉系の生体観察(頭部)	鰓弓性由来、体節性由来	咀嚼、哺乳、嚥下、発声など	60分
6	神経系、脈管系の生体観察	層序と分節、ノイロンに分析、動・静脈	麻痺、臨床	60分
7	感覚器、内臓の生体観察	嗅覚、視覚、聴覚 頸胸腹部・骨盤内臓	臨床的問題点	60分
8	外皮の生体観察	3層胚盤からの発生学的変化	デルマトーム	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
特になし

【科目名】 神経心理学	【担当教員】 道関 京子（客） [研究室]客員教員室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] doseki@nur.ac.jp
【授業コード】 a 105	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特記なし 《受講のルールに関わる情報》 特記なし	
【講義概要】 1) 高次脳の機能と構造について再考し最新の知識を学習する 2) 高次脳機能障害である多様な症状についてその共通する機能因子を探究する観察の重要性を学習する 3) 視覚・聴覚・体性感覚・運動・言語・記憶等における脳機能システムおよびその障害の発現を脳部位とともに学習する 3) 特に前頭葉と頭頂葉の役割および右半球・皮質下との関連について学ぶ 【一般教育目標(GIO)】 ・高次脳機能障害患者の様々な症状の意味を的確に把握、理解できるようにする 【行動目標(SBO)】 ・症状理解の方法が分かる	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 研究発表を課する。授業への取り組み 50%、研究課題発表 50%の割合で評価する。 1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は、他に課題を課す。	
【テキスト・教科書】 Luria 神経心理学の基礎-脳の働き。鹿島晴雄訳，創造出版，2003.	
【指定図書・参考書】 山鳥 重著 神経心理学入門 医学書院 1986 Rusell J.Wanda, G.Webb 著 田中・相馬監訳 伊林克彦他訳 基礎神経学 西村書店 1993	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	神経心理学の歴史と方法	脳を自己制御系として認識し、精神活動、運動と行為の機能的構造、その実現の脳の役割についての研究の歴史と方法概括	担当課題の調査・決定	60分
2	機能、局在、症状概念の再検討1	脳の局所病変と機能局在の基本原則 精神諸過程の系(システム)的構成	担当課題研究 文献調査を主に	60分
3	機能、局在、症状概念の再検討2	脳の三つの基本的機能単位系 覚醒調節, 情報受容, 活動, 相互作用	担当課題研究 文献抄読と研究	60分
4	脳の局在系と機能分析: 後頭領域	聴知覚機構 要素的視覚機能、視覚-認知機能	担当課題まとめ 発表に向けた準備	60分
5	脳の局在系と機能分析: 側頭領域	聴知覚機構 要素的聴覚機能、聴覚-認知機能	担当課題発表準備	120分
6	脳の局在系と機能分析: 感覚運動領域と前運動領域	運動の求心性機構、遠心性機構	担当課題の考察	60分
7	脳の局在系と機能分析: 前頭葉	運動と行為、記憶および知的行為、前頭葉症状群	神経心理学の各症状について 具体的に調べ考察	60分
8	脳の局在系と機能分析: 後頭、側頭、頭頂領域間の第三次領域	同時性統合(具体的空間的統合、象徴的準空間的統合、言語記憶)と右半球の頭頂-後頭領域機能	神経心理学の各症状について 具体的に調べ考察	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】神経心理学に重要な中枢神経系の解剖や画像診断に関しては、他の講義や上記の参考書等を参照されたい。また、講義の流れにより講義内容の順序等変更することがある。

【科目名】 リハビリテーション臨床学	【担当教員】 的場已知子
【授業区分】 共通科目	[オフィスアワー] 火・水・木
【授業コード】 a 106	[連絡] 事務望月に時間の確認をとってください。
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 心理学の基礎知識（国試レベル）を習得している人を対象に実践に活用することを前提に指導を行います。 《受講のルールに関わる情報》 自らの意見を持ち、積極的に学び、お互いに技術を高めあう姿勢を欠かさないこと。	
【講義概要】 リハビリテーション領域の患者は、心理検査のアプローチに対して抵抗を感じる方々がほとんどである。医療に必要な心理学では検査をすることを主観とするのではなく、患者に対するカウンセリング技術を習得し、主に精神病理学的な知識と専門技術を習得することを目的として実践指導を展開するものである。 【一般教育目標(GIO)】 ・実際に応用できる基礎知識を学び、臨床に活かせる技術を身につけることができる。 【行動目標(SBO)】 学んだ基礎知識を応用するために様々なアプローチを用い、自ら学び考え、実践できるように独自で組み立てられる能力を得ること。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 80%はレポートをもって評価する。20%は課題への取り組み等・	
【テキスト・教科書】 特になし	
【指定図書・参考書】 臨床心理学講義（杉浦京子）朱鷺書房，2008，¥2,800 「聞く」こと力，鷲田清一，（TBSブリタニカ） 現代言語論，立川健二・山田広昭，（新曜社） 心理査定実践ハンドブック，（創元社）	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	リハビリテーションにおける臨床心理学とは.	実践（臨床体験） ケース検討	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと. 事後：ケースから学んだ内容を振り返り，洞察する.	30分
2	人間理解の方法			30分
3	臨床心理学の基礎理論			30分
4	心理学援助の方法Ⅰ			30分
5	心理学援助の方法Ⅱ			30分
6	心理学援助の方法Ⅲ			30分
7	様々な分野における連携と応用Ⅰ			30分
8	様々な分野における連携と応用Ⅱ			30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
実際の臨床現場で，症例検討を行います.

【科目名】 看護・介護論	【担当教員】 氏名 尾崎フサ子（非） [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 共通科目	[内線番号] 3312（新潟青陵大学内研究室）025-266-0127（代）
【授業コード】 a 107	[メールアドレス] ozaki@n-seiryu.ac.jp [オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>特記なし</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>特記なし</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>1, 看護の科学を支える理論的基盤として、人間・健康・看護を学ぶ。また、健康と保健活動・環境や文化と健康のかかわり、国際的看護活動にも触れる。日本における看護の歴史はどのように発展してきたかを述べる。介護が充実してきている現在の状況がさらに発展するための視点を追求する。また、これからのリハビリテーションの役割と発展を論述する。</p> <p>2, ここでは、対象者とのコミュニケーションの重要性を強調する。良好なコミュニケーションは対象者の免疫力向上及び、実施者の勤務満足につながる。</p> <p>3, 医療職者には欠かせない他職種連携の良好な連携とは講義する。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>特記なし</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>特記なし</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>試験 10%、レポート 90%の割合で評価する。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>プリントを配布する・</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>資料を中心とする。</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	社会における看護の機能と役割	看護の歴史—現在	特記事項なし	0分
2	看護によって何ができるか	実際例をもとにして説明	特記事項なし	0分
3	社会における介護の役割	介護のスタートから現在まで	特記事項なし	0分
4	リハビリテーション	対象者に対するサポート体制	特記事項なし	0分
5	対象理解：コミュニケーション①	講義	特記事項なし	0分
6	対象理解：コミュニケーション②	講義	特記事項なし	0分
7	他職種連間の連携と協働	どうあるべきか	特記事項なし	0分
8	職務満足と対象者の満足	具体例をもとに話し合う	特記事項なし	0分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
相互に話し合いがもてる授業をめざす.

【科目名】 リスク管理学	【担当教員】 氏名 田中 裕 (非) [研究室]非常勤講師室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] tyutaka@dent.niigata-u.ac.jp
【授業コード】 a108	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特記なし 《受講のルールに関わる情報》 特記なし	
【講義概要】 医療事故の発生防止対策及び医療事故発生時の対応方法について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような知識を身につける。特に摂食・嚥下障害者では経口摂取を目指して援助を行う時に、誤嚥、窒息、肺炎などの生命にかかわるようなリスクを抱えながら進めることになる。また、高次脳機能障害者では脳卒中等の急性期管理などの危険を伴う。緊急場合にはどうすれば安全に援助できるかを事例に基づいてその概念を習得して事故防止に努めるとともに、実際に救急時の対応方法を習得することを目標とする。	
【一般教育目標(GIO)】 医療事故の発生防止対策及び医療事故発生時の対応方法について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような知識を身につける。	
【行動目標(SBO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサインについて説明できる ・心肺蘇生法適切に行える ・AEDを適切に使用できる ・救急蘇生について説明できる ・全身疾患とそのリスクについて説明できる 	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 本講義の記述式試験を実施する。試験 60%、授業・課題への取り組み 40%の割合で総合的に評価を行う。	
【テキスト・教科書】 瀬尾憲司：AHA ガイドライン 2010 と歯科医院での救急対処法、医歯薬出版（3,800 円）	
【指定図書・参考書】 BLS ヘルスケアプロバイダーマニュアル（日本語版）、シュパート株式会社（4,600 円） ハートセイバーAED ワークブック（日本語版）、株式会社シナジー（2,000 円）	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	リスク管理学 総論	リスク管理総論 バイタルサインの読み方・考え方	事後：学修した内容の復習	20分
2	リスク管理学 各論1-1	循環器系疾患患者のリスク管理	事後：学修した内容の復習	20分
3	リスク管理学 各論1-2	呼吸器系疾患患者のリスク管理	事後：学修した内容の復習	20分
4	リスク管理学 各論1-3	代謝・内分泌系疾患患者のリスク管理	事後：学修した内容の復習	20分
5	リスク管理学 各論1-4	その他の疾患を有する患者のリスク管理	事後：学修した内容の復習	20分
6	リスク管理学 各論2-1	救急蘇生1 —成人・小児乳児の心肺蘇生法—	事後：学修した内容の復習	20分
7	リスク管理学 各論2-2	救急蘇生2 —AEDの使用法、窒息の解除法—	事後：学修した内容の復習	20分
8	リスク管理学 各論2-3	救急蘇生3 —生命を脅かす緊急事態の対応—	事後：学修した内容の復習	20分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

医療従事者として、最低限の医学的知識、医療事故予防対策、および患者急変時の救急対応技術を身に付けていただきたい。

【科目名】 職場管理学	【担当教員】 小野東（非） [研究室]非常勤講師室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス]ono@cs.k.tsukuba-tech.ac.jp
【授業コード】 a 109	[オフィスアワー]来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 前提知識は特に必要ありません。 《受講のルールに関わる情報》 本講義は単なる受け身の知識の習得ではなく、受講中の皆さんの積極的参加を期待しています。	
【講義概要】 病院、企業、大学や社会福祉法人など多種多様な職場があり、多くの方が働いています。職場は単に人が集まったものではなく、一定の使命を帯びた組織です。組織には組織人としての必要なことがある。もともと個の集まりである組織では当然様々な問題や悩みが起きてきます。そもそも個人の技術ととも職場や組織とは何かについて理解していることが重要です。私の企業、大学、医療法人や社会福祉法人における職場経験をもとに講義します。	
【一般教育目標(GIO)】 ・病院、企業等の職場とそれらの管理とは何か、その中でどう生きるべきかを学び、将来職場運営や改善に役立てる知識の基礎を得ることを目標にします。	
【行動目標(SB0)】 ・職場の使命や様々な職場形態、及び課題について学ぶ。 ・職場の内部統制やコンプライアンスについて学ぶ。 ・職場の課題とイノベーションについて学ぶ。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 出席 50%、授業中の質疑応答等 10%、最終課題のレポート 40%の合計を満点として評価する。 1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は、他に課題を課す。	
【テキスト・教科書】 パワーポイント等によるオリジナルテキストを配布します。	
【指定図書・参考書】 講義中に必要なものを適宜紹介します。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	職場及び職場管理とは何か	事例から職場全体像について学ぶ	特記事項なし	0分
2	組織のミッションを考える	職場は組織であり、組織には固有のミッションがある。単なる人の集まりではない。組織のミッションといはなにかについて学び考える。	特記事項なし	0分
3	組織と管理について	組織構造の概要と管理とは何かについて学ぶ。	特記事項なし	0分
4	組織とイノベーション	一定のミッションを共有し運営されている組織もイノベーションがなければ衰退する。イノベーションを事例から学ぶ。	特記事項なし	0分
5	組織の内部統制について	組織には組織固有のミッションと合わせて高い透明性やコンプライアンスが必要とされる。職場構成員の留意すべき点を学ぶ。	特記事項なし	0分
6	情報化社会における組織と管理の特徴	高度情報化組織の留意点と情報の活用について	特記事項なし	0分
7	職場の諸問題について	職場には日々の運営の中で人事労務をはじめ様々な問題が現れる。それらの問題改善について考える。	特記事項なし	0分
8	管理者に必要なこと	よりよい職場とするために管理者の負う役割と責任ならびに必要なことについて整理し考える。	特記事項なし	0分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
<p>人はなぜ働くのでしょうか。生活のため、あるいは人生の目標のため、いや社会貢献・・・などなど様々な理由があるでしょう。</p> <p>いずれにしても人は職場あるいは家庭において大半の時間を費やします。また就業者の80%は何等かの組織に属します。組織における仕事を通じて人は成長します。不思議なことに、職場や組織と管理については経験則的な面が強調され、勉強する機会は余りありません。私自身の職場における失敗や悪戦苦闘の実例もところどころ題材に入れてあります。将来皆様が組織人として活躍できるために一緒に勉強しましょう。</p>

【科目名】 教授法	【担当教員】 氏名 鈴木憲雄（非） [研究室]非常勤講師室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] norisuzuki@nr.showa-u.ac.jp
【授業コード】 a 110	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特になし 《受講のルールに関わる情報》 *可能であればPCを持参してください。	
【講義概要】 皆さんは今後、専門領域の研究者として使命を果たす一方で、専門職を指導する教育者としての役割を担うことが予想されます。「教える」とはどのようなことなのだろうか。何を準備するとよいのだろうか。どうやって教えたらいいのか、何をおしえたらよいのか等、疑問は尽きません。 本科目では、より良い授業を展開するために必要となる、「教える」ことに関する基礎的知識を学びます。	
【一般教育目標(GIO)】 より良い授業を計画、実施していくために必要となる基礎的知識を身につける。	
【行動目標(SBO)】 01/ 「教える」の意味を説明できる。 02/ 「一般目標」「行動目標」「教育目標の3領域」とは何か説明できる。 03/ 「一般目標」「行動目標」を立案できる。 04/ 教科指導案に記載する内容を示すことができる。 05/ 教科指導案を作成できる。 06/ 客観試験、正答率、識別指数について説明できる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 本講義終了時に実施する確認テスト（80%）と一般目標・行動目標立案演習で作成した学習目標の提出物（20%）で評価する。 1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は、他に課題を課す。	
【テキスト・教科書】 特に指定しません。必要に応じ資料を配布します。	
【指定図書・参考書】 参考図書として、 齊藤喜博：授業の展開，国土社，2010 池田輝政・他：成長するティップス先生，玉川大学出版部，2001 日本医学教育学会：医学教育マニュアル1 医学教育の原理と進め方，篠原出版新社，1978 日本医学教育学会：医学教育マニュアル2 カリキュラムの作り方，篠原出版新社，1979 他，講義内で紹介いたします。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	「教える」の意味 教育目標の階層性	意図的用法, 成功的用法 教育施設の目標, ポリシー, コンピテン シー	ありません	0分
2	教育目標	一般目標, 行動目標, 教育目標の3領域	ありません	0分
3	教育目標立案	テーマに従った教育目標の立案演習	ありません	0分
4	教育目標立案	テーマに従った教育目標の立案演習	ありません	0分
5	教育目標立案 教科指導案	教育目標の発表・討議 記載すべき内容, 教材	ありません	0分
6	教科指導案作成演習	教科指導案を作成する.	ありません	0分
7	模擬授業	教科指導案に従った模擬授業 討議	ありません	0分
8	試験	客観試験, 正答率, 識別指数	ありません	0分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

2日間の集中講義となり、大変ですが、より良い専門職教育を目指して「教えること」について一緒に楽しく議論しましょう。